

【質問】最近テレビのコマーシャルで有名俳優が、「薬代が安くなります。お医者さんにご相談ください」といって、ジェネリック医薬品という薬の紹介をしています。どういったことが詳しく説明してください。

(主婦)



後発メーカーが製造

【回答】日本での薬の事情を説明いたしますと、日本の医薬品は種々の法律（薬事法、日本薬局方、中央薬事審議会等）をパスし、薬価基準に収載されて、初めて医療用医薬品として取り扱われます。新しく研究開発、発売された新薬を先発品といいます。製薬会社が新薬を発売するまでには短いもので十年、長いもので二十五年という歳月がか

ジェネリック医薬品

かり、それに伴って莫大（ばくだい）な投資費用を必要としますから、開発後一定期間、特許という形で保護されています。

先発品として保護された新薬は特許期間が過ぎると、他の製薬会社でも製造可能となります。さほど開発費用を必要とせずに先発品（新薬）と同じ薬を製造販売できるようになるわけです。このようにして製造

・販売される薬を総称してジェネリック医薬品（後発品）と呼んでいます。

ジェネリック医薬品は品質再評価という難しいテストにも合格していますが、医師には先発品の評価が高く、後発品メーカーに対する信用度が低いなど、種々の面から医師の十分な信頼が得られず、欧米に比較してその使用量は四分の一にすぎません。最近になって

品質、効果変わらず安価

厚生省はジェネリック医薬品を処方した場合、処方せん料へ加算するルールを導入し誘導を図っています。が、ジェネリック医薬品の啓蒙（けいもう）というより医療費抑制策の色濃いものと推察しています。

しかし、ジェネリック医薬品は今まで説明しましたように、品質、有効性、安全性をクリアし、先発品と変わらない効能、効果を有し、また、製造販売に至るまでの投資への関係から、薬価（値段）も先発品（新薬）よりも安く設定されています。慢性的病気で長期にわたりお薬が必要な方にとっては、窓口での一部負担が若干軽減されます。詳しくは主治医の先生にご相談ください。

(真医師会)